校異源氏物語・あけまき

あまたとしみゝなれたまひにし川かせもこの秋はいとはしたなくものかなしくて御はての事いそかせたまふおほかたのあるへかしきことゝもは中納言殿あさりなとそつかうまつり給ひけるこゝにはほうふくの事経のかさりこまかなる御あつかひを人のきこゆるにしたかひていとなみ給もいとものはかなくあはれにかゝるよその御うしろみなからましかはとみえたり身つからもまうて給ていまはとぬきすて給ふほとの御とふらひあさからすきこえ給あさりもこゝにまいれりみやうかうのいとひきみたりてかくてもへぬるなとうちかたらひ給ふほとなりけりむすひあけたるたゝりのすたれのつまより木丁のほころひにすきてみえけれはその事と心えてわか涙をはたまにぬかなんとうちすし給へる伊勢のこもかくこそありけめとおかしくきこゆるもうちの人はきゝしりかほにさしいらへ給はむもつゝましくてものとはなしにとかつらゆきかこのよなからのわかれをたに心ほそきすちにひきかけゝむもなとけにふることそ人の心をのふるたよりなりけるをおもひいて給御くわむもんつくり経仏くやうせらるへき心はへなとかきいて給へるすゝりのついてにまらうと

あけまきになかき契をむすひこめおなしところによりもあはなむとかきてみせたてまつり給へれはれいのとうるさけれと

ぬきもあへすもろき涙のたまのをになかき契をいかゝむすはんとあれはあはすはなにをとうらめしけになかめ給身つからの御うへはかくそこはかとなくもてけちてはつかしけなるにすか　くともえの給よらて宮の御ことをそまめやかにきこえ給さしも御心にいるましきことをかやうのかたにすこしすゝみ給へる御本上にきこえそめ給けむまけしたましゐにやとゝさまかうさまにいとよくなん御けしきみたてまつるまことにうしろめたくはあるましけなるをなとかくあなかちにしももてはなれ給らむ世のありさまなとおほしわくましくはみたてまつらぬをうたてとをとをしくのみもてなさせ給へはかはかりうらなくたのみきこゆる心にたかひてうらめしくなむともかくもおほしわくらむさまなとをさはやかにうけたまはりにしかなといとまめたちてきこえ給へはたかへしの心にてこそはかうまてあやしきよのためしなるありさまにてへたてなくもてなしは

へれそれをおほしわかさりけるこそはあさきこともまさりたるこゝちすれけにかゝるすまゐなとに心あらむ人はおもひのこす事あるましきをなに事にもをくれそめにけるうちにこのゝたまふめるすちはいにしへもさらにかけてとあらはかゝらはなと行すゑのあらましことにとりませての給をくこともなかりしかはなをかゝるさまにてよつきたるかたをおもひたゆへくおほしをきてけるとなむ思あはせ侍れはともかくもきこえんかたなくてさるはすこし世こもりたるほとにてみ山かくれには心くるしくみえ給人の御うへをいとかく朽木にはなしはてすもかなと人しれすあつかはしくおほえ侍れといかなるへきよにかあらむとうちなけきて物おもひみたれ給けるほとのけはひいとあはれけなりけさやかにをとなひてもいかてかはさかしかり給はむとことはりにてれいのふる人めしいてゝそかたらひ給としころはたゝのちのよさまの心はえにてすゝみまいりそめしをもの心ほそけにおほしなるめりし御すゑのころをひこの御ことゝもを心にまかせてもてなしきこゆへくなんの給契てしをおほしをきてたてまつり給し御ありさまともにはたかひて御心はへとものいと　くあやにくにものつよけなるはいかにおほしをきつるかたのことなるにやとうたかはしきことさへなむをのつからきゝつたへ給やうもあらむいとあやしき本上にて世の中に心をしむるかたなかりつるをさるへきにてやかうまてもきこえなれにけん世人もやう　くいひなすやうあへかめるにおなしくはむかしの御事もたかえきこえすわれも人もよのつねに心とけてきこえ侍らはやと思ひよるはつきなかるへきことにてもさやうなるためしなくやはあるなとの給つゝけて宮の御ことをもかくきこゆるにうしろめたくはあらしとうちとけ給ふさまならぬはうち　くにさりともおもほしむけたることのさまあらむ猶いかに　くとうちなかめつゝの給へはれいのわろひたる女はらなとはかゝることにはにくきさかしらもいひませて事よかりなともすめるをいとさはあらす心のうちにはあらまほしかるへき御事ともをとおもへともとよりかく人にたかひ給へる御くせともに侍れはにやいかにもいかにもよのつねになにやかやなとおもひより給へる御けしきになむ侍らぬかくてさふらふこれかれもとしころたになにのたのもしけあるこのもとのかくろへも侍らさりき身をすてかたくおもふかきりはほとほとにつけてまかてちりむかしのふるきすちなる人もおほくみたてまつりすてたるあたりにましていまはしはしもたちとまりかたけにわひ侍りておはしましゝ世にこそかきりありてかたほならむ御ありさまはいとをしくもなとこたいなる御うるはしさにおほしもとゝこほりつれいまはかう又たのみなき御身ともにていかにもいかにも世になひき給へ

らんをあなかちにそしりきこえむ人はかへりてものゝ心をもしらすいふかひなきことにてこそはあらめいかなる人かいとかくてよをはすくしはて給へき松の葉をすきてつとむる山ふしたにいける身のすてかたさによりてこそ仏の御をしへをもみち　くわかれてはおこなひなすなれなとやうのよからぬことをききこえしらせわかき御心ともみたれ給ぬへきことおほく侍めれとたわむへくもものしたまはすなかの宮をなむいかて人めかしくもあつかひなしたてまつらむと思ひきこえ給ふへかめるかく山ふかくたつねきこえさせ給める御心さしのとしへてみたてまつりなれ給へるけはひもうとからす思ひきこえさせ給ひいまはとさまかうさまにこまかなるすちきこえかよひ給めるにかの御かたをさやうにおもむけてきこえ給はゝとなむおほすへかめる宮の御ふみなと侍めるはさらにまめ

くしき御事ならしと侍めるときこゆれはあはれなる御ひとことをきゝをき露の世にかゝつらはむかきりはきこえかよはむの心あれはいつかたにもみえたてまつらむおなし事なるへきをさまてはたおほしよるなるいとうれしきことなれと心のひくかたなむかはかり思ひすつる世に猶とまりぬへきものなりけれはあらためてさはえ思ひなをすましくなむよのつねになよひかなるすちにもあらすやたゝかやうにものへたてゝ事のこいたるさまならすさしむかひてとにかくにさためなき世のものかたりをへたてなくきこえてつゝみ給御心のくまのこらすもてなし給はむなんはらからなとのさやうにむつましきほとなるもなくていとさう　くしくなんよの中のおもふことのあはれにもをかしくもうれはしくも時につけたるありさまを心にこめてのみすくる身なれはさすかにたつきなくおほゆるにうとかるましくたのみきこゆるきさいの宮はたなれ　くしくさやうにそこはかとなきおもひのまゝなるくた　くしさをきこえふるへきにもあらす三条の宮はおやと思きこゆへきにもあらぬ御わか　くしさなれとかきりあれはたやすくなれきこえさせすかしそのほかの女はすへていとうとくつゝましくおそろしくおほえて心からよるへなく心ほそきなりなをさりのすさひにてもけさうたちたることはいとまはゆくありつかすはしたなきこち　くしさにてまいて心にしめたるかたのことはうちいつることはかたくてうらめしくもいふせくも思きこゆるけしきをたにみえたてまつらぬこそわれなからかきりなくかたくなしきわさなれ宮の御事をもさりともあしさまにはきこえしとまかせてやはみ給はぬなといひゐ給へりおい人はたかはかり心ほそきにあらまほしけなる御ありさまをいとせちにさもあらせたてまつらはやとおもへといつかたもはつかしけなる御ありさまともなれは思のまゝにはえきこえすこよひはとまり給てものかたり

なとのとやかにきこえまほしくてやすらひくらし給つあさやかならすものうら
みかちなる御けしきやう　くわりなくなりゆけはわつらはしくてうちとけてき
こえ給はむこともいよ　くくるしけれとおほかたにてはありかたくあはれなる
人の御心なれはこよなくももてなしかたくてたいめむし給ふほとけのおはする
なかのとをあけてみあかしの火けさやかにかゝけさせてすたれにひやうふをそ
へてそおはするとにもおほとなふらまいらすれとなやましうてむらいなるをあ
らはになといさめてかたはらふし給へり御くたものなとわさとはなくしなして
まいらせ給へり御ともの人ゝにもゆへ　くしきさかなゝとしていたさせ給へり
らうめいたるかたにあつまりてこの御まへは人けとをくもてなしてしめ　くと
ものかたりきこえ給うちとくへくもあらぬものからなつかしけにあい行つきて
ものゝ給へるさまのなのめならす心にいりて思いらるゝもはかなしかくほとも
なきものゝへたてはかりをさはり所にておほつかなく思つゝすくす心をそさの
あまりおこかましくもあるかなと思つゝけらるれとつれなくておほかたの世中
のことゝもあはれにもおかしくもさま　くきゝ所おほくかたらひきこえ給うち
には人　くちかくなとのたまひをきつれとさしももてはなれ給はさらなむとおも
もふへかめれはいとしもまもりきこえすさししそきつゝみなよりふしてほとけ
の御ともし火もかゝくる人もなしものむつかしくてしのひて人めせとおとろか
す心ちのかきみたりなやましく侍をためらひてあか月かたにも又きこえんとて
いり給なむとするけしきなり山路わけ侍りつる人はましていとくるしけれとか
くきこえうけ給へるになくさめてこそ侍れうちすてゝいらせ給なはいと心ほそ
からむとて屏風をやをらおしあけていり給ぬいとむくつけくてなからはかりい
り給へるにひきとゝめられていみしくねたく心うけれはへたてなきとはかゝる
をやいふらむめつらかなるわさかなとあはめ給へるさまのいよ　くをかしけれ
はへたてぬ心をさらにおほしわかねはきこえしらせむとそかしめつらかなりと
もいかなるかたにおほしよるにかはあらむ仏の御まへにてちかこともたて侍ら
むうたてなをち給そ御心やふらしと思そめて侍れは人はかくしもをしはかり思
ましかめれと世にたかへるしれものにてすくし侍そやとて心にくきほとなるほ
かけに御くしのこほれかゝりたるをかきやりつゝみ給へは人の御けはひ思やう
にかほりをかしけなりかく心ほそくあさましき御すみかにすいたらむ人はさは
りところあるましけなるをわれならてたつねくる人もあらましかはさてやゝみ
なましいかにくちをしきわさならましときしかたの心のやすらひさへあやうく
おほえ給へといふかひなくうしと思てなき給ふ御けしきのいと　くをしけれは

かくはあらてをのつから心ゆるひしたまふおりもありなむと思わたるわりなきやうなるも心くるしくてさまよくこしらへきこえ給かゝる御こゝろのほとをおもひよらてあやしきまてきこえなれにたるをゆゝしき袖の色なとみあらはし給心あさゝに身つからのいふかひなさも思しらるゝにさま〳〵なくさむかたなくとうらみてなに心もなくやつれ給へるすみそめのほかけをいとはしたなくわひしと思まとひ給へりいとかくしもおほさるゝやうこそはとはつかしきにきこえむかたなし袖の色をひきかけさせ給はしもことはりなれとこゝら御らむしなれぬる心さしのしるしにはさはかりのいみおくへくいまはしめたる事めきてやはおほさるへきなか〳〵なる御わきまへ心になむとてかのもののねきゝしありあけの月かけよりはしめており〳〵の思ふ心のしのひかたくなり行さまをいとおほくきこえ給にはつかしくもありけるかなとうとましくかゝる心はえなからつれなくまめたち給けるかなときゝ給ことおほかり御かたはらなるみしかき木丁を仏の御かたにさしへたてゝかりそめにそひふし給へりみやうかうのいとかうはしくにほひてしきみのいとはなやかにかほれるけはひも人よりはけに仏をも思きこえ給へる御心にてわつらはしくすみそめのいまさらにおりふし心いられしたるやうにあは〳〵しくおもひそめしにたかうへけれはかゝるいみなからむ程にこの御心にもさりともすこしたはみ給なむなとせめてのとかに思なし給秋の夜のけはひはかゝらぬところたにをのつからあはれおほかるをましてみねのあらしもまかきのむしも心ほそけにのみきゝわたさるつねなきよの御物かたりに時〳〵さしいらへ給へるさまいと見所おほくめやすしいきたなかりつる人

〳〵はかうなりけりとけしきとりてみないりぬ宮のゝ給しさまなとおほしいつるにけになからへは心のほかにかくあるましき事もみるへきわさにこそはと物のみかなしくて水のをとになかれそふ心ちし給はかなくあけかたになりにけり御ともの人〳〵おきてこはつくりむまとものいはゆるをともたひのやとりのあるやうなと人のかたるをおほしやられておかしくおほさるひかりみえつるかたのさうしをおしあけ給てそらのあはれなるをもろともにみ給ふ女もすこしゐさりいて給へるにほともなきのきのちかさなれはしのふの露もやう〳〵ひかりみへもて行かたみにいとえむなるさまかたちともをなにとはなくてたゝかやうに月をも花をもおなし心にもてあそひはかなき世のありさまをきこえあはせてなむすくさまほしきといとなつかしきさましてかたらひきこえ給へはやう〳〵おそろしさもなくさみてかういとはしたなからてものへたてゝなときこえはまことに心のへたてはさらにあるましくなむといらへ給ふあかくなりゆきむらとり

のたちさまよふはかせちかくきこゆよふかきあしたのかねのをとかすかにひゝくいまはいとみくるしきをといとわりなくはつかしけにおほしたりことありかほにあさ露もえわけ侍まし又人はいかゝをしはかりきこゆへきれいのやうになたらかにもてなさせ給てたゝ世にたかひたることにていまよりのちもたゝかやうにしなさせ給てよ世にうしろめたき心はあらしとおほせかはかりあなかちなる心のほともあはれとおほししらぬこそかひなけれとていて給はむのけしきもなしあさましくかたはならむとていまよりのちはされはこそもてなし給はむまゝにあらむけさはまたきこゆるにしたかひ給へかしとていとすへなしとおほしたれはあなくるしやあか月のわかれやまたしらぬことにてけにまとひぬへきをとなけきかちなりにはとりもいつかたにかあらむほのかにをとなふに京おもひいてらる

山さとのあはれしらるゝころゑ　くにとりあつめたるあさほらけかな女君

鳥のねもきこえぬ山とおもひしを世のうきことはたつねきにけりさうしくちまてをくりたてまつり給てよへいりしとくちよりいてゝふし給へれとまとろまれすなこりこひしくていとかくおもはましかは月ころもいまゝて心のとかならましやなとかへらむこともゝのうくおほえ給ひめ宮は人のおもふらむことのつゝましきにとみにもうちふされ給はてたのもしき人なくてよをすくす身の心うきをある人ともゝよからぬ事なにやかやとつき　くにしたかひつゝいひいつめるに心よりほかのことありぬへき世なめりとおほしめくらすにはこの人の御けはひありさまのうとましくはあるましくこ宮もさやうなる御心はえあらはとおり　くの給おほすめりしかと身つからは猶かくてすくしてむわれよりはさまかたちもさかりにあたらしけなるなかの宮をひとなみ　くにみなしたらむこそうれしからめ人のうへになしては心のいたらむかきり思うしろみてむ身つからのうへのもてなしは又たれかはみあつかはむこの人の御さまのなのめにうちまきれたるほとならはかくみなれぬるとしころのしるしにうちゆるふ心もありぬへきをはつかしけにみえにくきけしきもなか　くいみしくつゝましきにわか世はかくてすくしはてゝむと思つゝけてねなきかちにあかし給へるになこりいとなやましけれはなかの宮のふし給へるをくのかたにそひふし給れいならす人のさゝめきしけしきもあやしとこの宮はおほしつらねたまへるにかくておはしたれはうれしくて御そひきゝせたてまつり給ふに御うつりかのまきるへくもあらすくゆりかゝる心ちすれはとのゐ人かもてあつかひけむ思あはせられてまことなるへしといとおしくてねぬるやうにてものもの給はすまらうとは弁のおもと

よひいて給てこまかにかたらひをき御せうそこすく　くしくきこえをきていて
給ぬあけまきをたはふれにとりなしゝも心もてひろはかりのへたてもたいめん
しつるとやこの君もおほすらむといみしくはつかしけれは心ちあしとてなやみ
くらし給つ人　くひはのこりなくなり侍ぬはか　くしくはかなきことをたに又
つかうまつる人もなきにおりあしき御なやみかなときこゆなかの宮くみなとし
はて給て心はなとえこそ思ひより侍ねとせめてきこえ給へはくらくなりぬるま
きれにおき給てもろともにむすひなとし給中納言殿より御ふみあれとけさより
いとなやましくなむとて人つてにそきこえ給さもみくるしくわか　くしくおは
すと人ゝつふやききこゆ御ふくなとはてゝぬきすて給へるにつけてもかたとき
もをくれたてまつらむものとおもはさりしをはかなくすきにける月日のほとを
おほすにいみしく思のほかなる身のうさとなきしつみ給へる御さまともいと心
くるしけなり月ころくろくならはしたる御すかたうすにひにていとなまめかし
くてなかの宮はけにいとさかりにてうつくしけなるにほひまさり給へり御くし
なとすましつくろはせてみたてまつり給に世のものおもひわするゝ心ちしてめ
てたけれは人しれすちかおとりしてはおもはすやあらむとたのもしくうれしく
ていまは又みゆつる人もなくておや心にかしつきたてゝみきこえ給ふかの人は
つゝみきこえ給しふちのころももあらため給へらむなか月もしつ心なくて又お
はしたりれいのやうにきこえむとまた御せうそこあるに心あやまりしてわつら
はしくおほゆれはとかくきこえすまひてたいめむし給はす思のほかに心うき御
心かな人もいかにおもひ侍らむと御ふみにてきこえ給へりいまはとてぬき侍し
ほとの心まとひに中　くしつみはへりてなむえきこえぬとありうらみわひてれ
いの人めしてよろつにの給よにしらぬ心ほそさのなくさめにはこの君をのみた
のみきこえたる人　くなれは思にかなひ給てよのつねのすみかにうつろひなと
し給はむをいとめてたかるへきことにいひあはせてたゝ入たてまつらむとみな
かたらひあはせけりひめ宮そのけしきをはふかくみしり給はねとかくとりわき
て人めかしなつけたまふめるにうちとけてうしろめたき心もやあらむゝかしも
のかたりにも心もてやはとある事もかゝる事もあめるうちとくましき人の心に
こそあめれと思より給てせめてうらみふかくはこの君をおしいてむおとりさま
ならむにてたにさてもみそめてはあさはかにはもてなすましき心なめるをまし
てほのかにもみそめてはなくさみなむことにいてゝはいかてかはふとさる事を
まちとる人のあらむほいになむあらぬとうけひくけしきのなかなるはかたへは
人のおもはむことをあいなうあさきかたにやなとつゝみ給ふならむとおほしか

まふるをけしきたにしらせ給はすはつみもやえむとみをつみていとおしけれは
よろつにうちかたらひてむかしの御おもむけも世中をかく心ほそくてすくしは
つとも中　く人わらへにかろ　くしき心つかうなゝとの給をきしをおはせし世
の御ほたしにてをこなひの御心をみたりしつみたにいみしかりけむをいまはと
てさはかりの給しひとことをたにたかへしと思侍れは心ほそくなともことに思
はぬをこの人　くのあやしく心こはき物にゝくむめるこそいとわりなけれけに
さのみやうのものとすくし給はむもあけくるゝ月日にそへても御ことをのみこ
そあたらしく心くるしくかなしき物に思ひきこゆるを君たによのつねにもてな
し給てかゝる身のありさまもおもたゝしくなくさむはかりみたてまつりなさは
やときこえ給へはいかにおほすにかと心うくてひとゝころをのみやはさて世に
はて給へとはきこえ給けむはか　くしくもあらぬみのうしろめたさはかすそひ
たるやうにこそおほされためりしか心ほそき御なくさめにはかくあさゆふにみ
たてまつるよりゐかなるかたにかとなまうらめしく思給つれはけにといとおし
くて猶これかれうたてひか　くしきものにいひおもふへかめるにつけて思みた
れ侍そやといひさし給つくれゆくにまらうとはかへり給はすひめ宮いとむつか
しとおほす弁まいりて御せうそこともきこえつたへてうらみたまふをことはり
なるよしをつふ　くときこゆれはいらへもし給はすうちなけきていかにもてな
すへき身にかはひとゝころおはせましかはともかくもさるへき人にあつかはれ
たてまつりてすくせといふなるかたにつけて身を心ともせぬ世なれはみなれい
のことにてこそは人わらへなるとかをもかくすなれあるかきりの人はとしつも
りさかしけにをのかしゝは思つゝ心をやりてにつかはしけなることをきこえし
らすれとこははか　くしきことかは人めかしからぬ心ともにてたゝひとかたに
いふにこそはとみ給へはひきうこかしつはかりきこえあへるもいと心うくうと
ましくてとうせられ給はすおなし心になにこともかたらひきこえ給なかの宮は
かゝるすちにはいますこし心もえすおほとかにてなにともきゝいれ給はねはあ
やしくもありける身かなとたゝおくさまにむきておはすれはれいの色の御そと
もたてまつりかへよなとそゝのかしきこえつゝみなさる心すへかめるけしきを
あさましくけになにのさはりところかはあらむほともなくてかゝる御すまゐの
かひなき山なしの花そのかれむかたなかりけるまらうとはかくけせうにこれか
れにもくちいれさせすしのひやかにいつありけむことゝもなくもてなしてこそ
と思ひそめ給ひけることなれは御心ゆるし給はすはいつもいつもかくてすくさ
むとおほしの給ふをこのおい人のをのかしゝかたらひてけせうにさゝめきさは

いへとふかゝらぬけにおいひかめるにやいとおしくそみゆるひめ宮おほしわつらひて弁かまいれるにの給ふとしころも人にゝぬ御心よせとのみの給わたりしをきゝをきいまとなりてはよろつにのこりなくたのみきこえてあやしきまてうちとけにたるを思ひしにたかふさまなる御心はえのましりてうらみ給めるこそわりなけれよに人めきてあらまほしき身ならはかゝる御ことをもなにかはもてはなれても思はましされとむかしより思はなれそめたる心にていとくるしきをこの君のさかりすき給はむもくちおしけにかゝるすまゐもたゝこの御ゆかりにところせくのみおほゆるをまことにむかしを思きこえ給心さしならはおなしことにおもひなし給へかし身をわけたる心の中はみなゆつりてみたてまつらむ心ちなむすへき猶かうやうによろしけにきこえなされよとはちらひたるものからあるへきさまをのたまひつゝくれはいとあはれとみたてまつるさのみこそはさき　くも御けしきをみ給ふれはいとよくきこえさすれとさはえ思ひあらたむまし兵部卿宮の御うらみふかさまさるめれは又そなたさまにいとよくうしろみきこえむとなむきこえ給それも思やうなる御事ともなりふた所なからおはしましてことさらにいみしき御心つくしてかしつきゝこえさせ給はむにえしもかく世にありかたき御ことゝもさしつとひ給はさらましかしこけれとかくいとたつきなけなる御ありさまをみたてまつるにいかになりはてさせ給はむとうしろめたくかなしくのみゝたてまつるをのちの御心はしりかたけれとうつくしくめてたき御すくせともにこそおはしましけれとなむかつ　くおもひきこゆるこ宮の御ゆいこんたかへしとおほしめすかたはことはりなれとそれはさるへき人のおはせすしなほとならぬ事やおはしまさむとおほしていましめきこえさせ給ふめりしにこそこのとのゝさやうなる心はえものし給はましかはひとゝころをうしろやすくみをきたてまつりていかにうれしからましとおりおりのたまはせしものをほとほとにつけておもふ人にをくれ給ぬる人はたかきもくたれるも心のほかにあるましきさまにさすらふたくひたにこそおほく侍めれそれみなれいの事なめれはもときいふ人も侍らすましてかくはかりことさらにもつくりいてまほしけなる人の御ありさまに心さしふかくありかたけにきこえ給をあなかちにもてはなれさせ給ふておほしをきつるやうにをこなひのほいをとけ給ともさりとて雲霞をやはなとすへてことおほく申つゝくれはいとにくゝ心つきなしとおほしてひれふし給へりなかの宮もあいなくいとをしき御けしきかなとみたてまつり給てもろともにれいのやうに御とのこもりぬうしろめたくいかにもてなさむとおほえ給へとことさらめきてさしこもりかくろへ給へきものゝくまたになき御

すまゐなれはなよゝかにおかしき御そうへにひきゝせたてまつり給てまたけはひあつきほとなれはすこしまろひのきてふし給へり弁はの給ひつるさまをまらうとにきこゆいかなれはいとかくしもよを思はなれ給ふらむひしりたち給へりしあたりにてつねなきものに思しり給へるにやとおほすにいとゝ我心かよひておほゆれはさかしたちにくゝもおほえすさらはものこしなとにもいまはあるましきことにおほしなるにこそはあなれこよひはかりおほとのこもるらむあたりにもしのひてたはかれとの給へは心して人とくしつめなと心しれるとちは思かまふよゐすこしすくるほとに風のをとあらゝかにうち吹にはかなきさまなるしとみなとはひし　くとまきるゝをとに人のしのひ給へるふるまひはえきゝつけ給はしと思ひてやをらみちひきいるおなし所におほとのこもれるをうしろめたしと思へとつねの事なれはほか　くにともいかゝきこえむ御けはひをもたと

　くしからすみたてまつりしり給へらむと思けるにうちもまとろみ給はねはふときゝつけたまてやをらおきいて給ぬいとゝくはひかくれ給ぬなに心もなくねいり給へるをいと　くをしくいかにするわさそとむねつふれてもろともにかくれなはやと思へとさもえたちかへらてわなゝく　くみ給へは火のほのかなるにうちきすかたにていとなれかほに木丁のかたひらをひきあけて入ぬるをいみしくいとをしくいかにおほえ給はむと思なからあやしきかへのつらにひやうふをたてたるうしろのむつかしけなるにゐ給ぬあらましことにてたにつらしと思たまへりつるをまいていかにめつらかにおほしうとまむといと心くるしきにもすへてはか　くしきうしろみなくておちとまる身とものかなしきを思つゝけ給にいまはとて山にのほり給しゆふへの御さまなとたゝいまの心ちしていみしくこひしくかなしくおほえ給中納言はひとりふし給へるを心しけるにやとうれしくて心ときめきし給にやう　くあらさりけりとみるいますこしうつくしくらうたけなるけしきはまさりてやとおほゆあさましけにあきれまとひ給へるをけに心もしらさりけるとみゆれはいと　くをしくもあり又おしかへしてかくれ給へらむつらさのまめやかに心うくねたけれはこれをもよそのものとはえ思はなつましけれとなをほいのたかはむくちおしくてうちつけにあさかりけりともおほえたてまつらしこのひとふしは猶すくしてつゐにすくせのかれすはこなたさまにならむもなにかはこと人のやうにやはと思さましてれいのおかしくなつかしきさまにかたらひてあかし給つおい人ともはしそしつと思てなかの宮いつこにかおはしますらむあやしきわさかなとたとりあへりさりともあるやうあらむなといふおほかたれいのみたてまつるにしはのふる心ちしてめてたくあはれにみま

ほしき御かたちありさまをなとていともてはなれてはきこえ給らむなにかこれはよの人のいふめるおそろしきかみそつきたてまつりたらむとはゝうちすきてあい行なけにいひなす女あり又あなまか　くしなその物かつかせ給はむたゝ人にとをくておひいてさせ給めれはかゝる事にもつき　くしけにもてなしきこえ給人もなくおはしますにはしたなくおほさるゝにこそいまをのつからみたてまつりなれ給なは思きこえ給ひてんなとかたらひてとくうちとけておもふやうにておはしまさなむといふ　くねいりていひきなとかたはらいたくするもありあふ人からにもあらぬ秋の夜なれとほともなくあけぬる心ちしていつれとわくへくもあらすなまめかしき御けはひを人やりならすあかぬ心ちしてあいおほせよいと心うくつらき人の御さまみならひ給なよなとのちせを契ていて給我なからあやしくゆめのやうにおほゆれと猶つれなき人の御けしきいまひとたひみはてむの心に思のとめつゝれいのいてゝふし給へり弁まいりてゐとあやしく中の宮はいつくにかおはしますらむといふをいとはつかしく思かけぬ御心ちにいかなりけんことにかと思ひふし給へりきのふの給しことをおほしいてゝひめ宮をつらしと思きこえ給あけにけるひかりにつきてそかへのなかのきり　くすはいいて給へるおほすらむ事のいと　くおしけれはかたみにものもいはれ給はすゆかしけなく心うくもあるかないまよりのちも心ゆるいすへくもあらぬ世にこそと思みたれ給へり弁はあなたにまいりてあさましかりける御心つよさをきゝあらはしていとあまりふかく人にくかりける事といとおしく思ほれゐたりきしかたのつらさはなをのこりある心ちしてよろつに思なくさめつるをこよひなむまことにはつかしく身もなけつへき心ちするすてかたくおとしをきたてまつり給へりけん心くるしさを思きこゆるかたこそ又ひたふるに身をもえおもひすつましけれかけ　くしきすちはゐつかたにもおもひきこえしうきもつらきもかた　くにわすられ給ましくなん宮なとのはつかしけなくきこえ給めるをおなしくは心たかくと思ふかたそことにものし給らんと心えはてつれはいとことはりにはつかしくてまたまいりて人　くにみえたてまつらむこともねたくなむよしかくおこかましき身のうへまた人にたにもらし給なとえむしをきてれいよりもいそきいて給ぬたか御ためもいとおしくとさゝめきあへりひめきみもいかにしつることそもしをろかなる心ものしたまはゝとむねつふれて心くるしけれはすへてうちあはぬ人　くのさかしらにくしとおほすさま　く思給ふに御ふみありれいよりはうれしとおほえ給もかつはあやし秋のけしきもしらすかほにあをきえたのかたえいとこくもみちたるを

おなしえをわきてそめける山ひめにいつれかふかき色とゝはゝやさはかり

うらみつるけしきもことすくなにことそきてをしつゝみ給へるをそこはかとなく

くもてなしてやみなむとなめりとみ給も心さはきてみるかしかましく御かへり

といへはきこえ給へとゆつらむもうたておほえてさすかにかきにくゝ思みたれ

給

山ひめのそむるこゝろはわかねともうつろふかたやふかきなるらんことなし

ひにかき給へるかおかしくみえけれはなをえゑんしはつましくおほゆ身をわ

けてなとゆつり給けしきはたひ　くみえしかとうけひかぬにわひてかまへ給へ

るなめりそのかひなくかくつれなからむもいとおしくなさけなき物に思をかれ

ていよ　くはしめのおもひかなひかたくやあらんとかくいひつたへなとすめる

おい人の思はむ所もかろかろしくとにかくに心をそめけむたにくやしくかはか

りの世の中を思すてむの心に身つからもかなはさりけりと人わろく思しらるゝ

をましてをしなへたるすきものゝまねにおなしあたりかへすかへすこきめくら

むいと人わつらへなるたなゝしをふねめきたるへしなとよもすから思あかし給

てまたありあけのそらもおかしきほとに兵部卿宮の御かたにまいり給三条宮や

けにしのちは六条の院にそうつろひ給へれはちかくてはつねにまいり給宮もお

ほすやうなる御心ちし給けりまきるゝ事なくあらまほしき御すまゐにおまへの

せむさいほかのにはにすおなし花のすかたも木草のなひきさまもことにみなさ

れてやり水にすめる月のかけさへゑにかきたるやうなるにおもひつるもしるく

おきおはしましけり風につきて吹くるにほひのいとしるくうちかほるにふとそ

れとうちおとろかれて御なをしたてまつりみたれぬさまにひきつくろひていて

給はしをのほりもはてすついゐ給へれは猶うへになともの給はてかうらんによ

りゐ給て世中の御ものかたりきこえかはし給ふかのわたりの事をもものゝつい

てにはおほしいてゝよろつにうらみ給もわりなしや身つからの心にたにかなひ

かたきをと思ふ　くさもおはせなむと思なるやうのあれはれいよりはまめやか

にあるへきさまなと申給あけくれのほとあやにくにきりわたりてそらのけはひ

ひやゝかなるに月はきりにへたてられてこのしたもくらくなまめきたり山さと

のあはれなるありさま思いて給にやこのころのほとはかならすをくらかし給な

とかたらひ給を猶わつらはしかれは

をみなへしさけるおほのをふせきつゝ心せはくやしめをゆふらむとたはふ

れ給ふ

霧ふかきあしたのはらのをみなへしこゝろをよせてみる人そみるなへてや

はなとねたましきこゆれはあなかしかましとはて　くははらたち給ぬとしころかくの給へと人の御ありさまをうしろめたく思しにかたちなともみおとし給ましくをしはからるゝ心はせのちかおとりするやうもややなとそあやうく思はたりしをなに事もくちをしくはものし給ふましかめりとおもへはかのいとをしくうちうちに思たはかり給ふありさまもたかふやうならむもなさけなきやうなるをさりとてさはたえおもひあらたむましくおほゆれはゆつりきこえていつかたのうらみをもおはしなとしたに思かまふる心をもしり給はて心せはくとりなし給もおかしけれとれいのかろらかなる御心さまにもの思はせむこそ心くるしかるへけれなとおやかたになりてきこえ給よしみ給へかはかり心にとまることなむまたなかりつるなといとまめやかにの給へはかの心ともにはさもやとうちなひきぬへきけしきはみえすなむ侍るつかうまつりにくきみやつかへにこそ侍やとておはしますへきやうなとこまかにきこえしらせ給ふ廿八日のひかむのはてにてよき日なりけれは人しれす心つかひしていみしくしのひていてたてまつるきさいの宮なときこしめしいてゝはかゝる御ありきいみしくせいしきこえ給へはいとわつらはしきをせちにおほしたる事なれはさりけなくともてあつかふもわりなくなむふなわたりなともところせけれはこと　くしき御やとりなともかり給はすそのわたりいとちかきみしやうの人のいゑにいとしのひて宮をはおろしたてまつり給ておはしぬみとかめたてまつるへき人もなけれとゝのゐ人はわつかにいてゝありくにもけしきしらせしとなるへしれいの中納言とのおはしますとてけいめいしあへり君たちなまわつらはしくきゝ給へとうつろふかたことにほはしをきてしかはとひめ宮おほすなかの宮はおもふかたことなめりしかはさりともとおもひなから心うかりしのちはありしやうにあね宮をも思きこえ給はす心をかれてものし給なにやかやと御せうそこのみきこえかよひていかなるへきことにかと人　くも心くるしかる宮をは御むまにてくらきまきれにおはしまさせ給て弁めしいてゝこゝもとにたゝひと事きこえさすへきことなむ侍るをおほしはなつさまみたてまつりてしにいとはつかしけれとひたやこもりにてはえやむましきをいましはしふかしてをありしさまにはみちひき給てむやなとうらもなくかたらひ給へはいつかたにもおなし事にこそはなと思てまいりぬさなむときこゆれはされはよおもひうつりにけりとうれしくて心おちゐてかのいり給へきみちにはあらぬひさしのさうしをいとよくさしてたいめむし給へりひとことときこえさすへきかまた人きくはかりのゝしらむはあやなきをいさゝかあけさせ給へゐといふせしときこえさせ給へといとよくきこえぬへしとてあけ給は

すいまはとうつろひなむをたゝならしとていふへきにやなにかはれいならぬたいめんにもあらす人にくゝいらへてよもふかさしなと思てかはかりもいて給へるにさうしのなかより御袖をとらへてひきよせていみしくうらむれはいとうたてもあるわさかななににきゝいれつらむとくやしくむつかしけれとこしらへていたしてむとおほしてこと人と思わき給ましきさまにかすめつゝかたらひ給へる心はえなといとあはれなり宮はをしへきこえつるまゝに一よのとくちによりてあふきをならし給へは弁もまいりてみちひききこゆさき　くもなれにける道のしるへおかしとおほしつゝいり給ぬるをもひめ宮はしり給はてこしらへいれてむとおほしたりおかしくもいとをしくもおほえてうちうちに心もしらさりけるうらみをかれんもつみさり所なき心ちすへけれは宮のしたひ給ひつれはえきこえいなひてこゝにおはしつるをともせてこそまきれ給ぬれこのさかしたつめる人やかたらはれたてまつりぬらむなかそらに人わらへにもなり侍ぬへきかなとの給にいますこし思よらぬ事のめもあやに心つきなくなりてかくよろつにめつらかなりける御心のほともしらていふかひなき心おさなさもみえたてまつりにけるおこたりにおほしあなつるにこそはといはむかたなく思給へりいまはいふかひなしことはりはかへす　くきこえさせてもあまりあらはつみもひねらせ給へやむことなきかたにおほしよるめるをすくせなといふめるものさらに心にかなはぬ物に侍めれはかの御心さしはことに侍けるをいとをしく思給ふるにかなはぬ身こそをき所なく心うくはへりけれ猶いかゝはせむにおほしよはりねこのみさうしのかためはかりいとつよきもまことに物きよくをしはかりきこゆる人も侍らししるへといさなひ給へる人の御心にもまさにかくむねふたかりてあかすらむとはおほしなむやとてさうしをもひきやふりつへきけしきなれはいはむかたなく心つきなけれとこしらへむと思しつめてこのゝ給ふすちすくせといふらむかたはめにもみえぬ事にていかにも　く思たとられすしらぬ涙のみきりふたかる心ちしてなんこはいかにもてなし給そと夢のやうにあさましきにのちのよのためしにいひいつる人もあらはむかし物かたりなとにおこめきてつくりいてたる物のたとひにこそはなりぬかめれかくおほしかまふる心のほとをもいかなりけるとかはをしはかり給はむなをいとかくおとろ　くしく心うくなとりあつめまとはし給そ心よりほかになからへはすこし思のとまりてきこえむ心ちもさらにかきくらすやうにていとなやましきをこゝにうちやすまむゆるし給へといみしくわひ給へはさすかにことはりをいとよくの給か心はつかしくくらうたくおほえてあか君御心にしたかふことのたくひなけれはこそかくまてかたくな

しくなり侍れいひしらすにくゝうとましきものにおほしなすめれはきこえむかたなしいとゝ世にあとゝむへくなむおほえぬとてさらはへたてなからもきこえさせむひたふるになうちすてさせ給そとてゆるしたてまつり給へれははひいりてさすかにいりもはて給はぬをいとあはれと思てかはかりの御けはひをなくさめにてあかし侍らむゆめ　くときこえてうちもまとろますいとゝしき水のをとにめもさめてよはのあらしに山とりの心ちしてあかしかね給れいのあけ行けはひにかねのこゑなときこゆいきたなくていて給へきけしきもなきよと心やましくこはつくり給もけにあやしきわさなり

しるへせし我やかへりてまとふへき心もゆかぬあけくれの道かゝるためし

世にありけむやとの給へは

かた　くにくらす心をおもひやれ人やりならぬ道にまとはゝとほのかにの給ふをいとあかぬ心ちすれはいかにこよなくへたゝりて侍めれはいとはりなうこそなとよろつにうらみつゝほの　くとあけ行ほとによへのかたよりいて給なりいとやはらかにふるまひなし給へるにほひなとえむなる御心けさうにはいひしらすしめ給へりねひ人ともはいとあやしく心えかたく思まとはれけれとさりともあしさまなる御心あらむやはとなくさめたりくらきほとにといそきかへり給ふみちのほともかへるさはいとはるけくおほされて心やすくもえゆきかよはさらむことのかねていとくるしきをよをやへたてんと思なやみ給なめりまた人さはかしからぬあしたのほとにおはしつきぬらうに御くるまよせており給ふことやうなる女車のさましてかくろへいり給にみなわらひ給てをろかならぬ宮つかへの御心さしとなむ思給ふると申給しるへのおこかましさもいとねたくてうれへもきこえ給はす宮はいつしかと御ふみたてまつり給山さとにはたれも　くうつゝの心ちし給はすおもひみたれ給へりさま　くにおほしかまへけるをいろにもいたし給はさりけるよとうとましくつらくあね宮をは思きこえ給てめもみあはせたてまつり給はすしらさりしさまをもさは　くとはえあきらめ給はてことはりに心くるしく思きこえ給人　くもいかにはへりしことにかなと御けしきみたてまつれとおほしほれたるやうにてたのもし人のおはすれはあやしきわさかなと思あへり御ふみもひきときてみせたてまつり給へとさらにおきあかり給はねはいとひさしくなりぬと御つかひわひけり

よのつねに思やすらむつゆふかき道のさゝはらわけてきつるもかきなれ給へるすみつきなとのことさらにえむなるもおほかたにつけてみ給しはおかしくおほえしをうしろめたくもの思はしくてわれさかし人にてきこえむもいとつゝ

ましけれはまめやかにあるへきやうをいみしくせめてかゝせたてまつり給しを
むいろのほそなかひとかさねにみへかさねのはかまくして給ふ御つかひくるし
けに思たれはつゝませてともなる人になむをくらせ給ふこと　くしき御つかひ
にもあらすれいたてまつれ給ふうへわらはなりことさらに人にけしきもらさし
とおほしけれはよへのさかしかりしおい人のしわさなりけりとものしくなむき
こしめしけるその夜もかのしるへさそひ給へとれせい院にかならすさふらふへ
きこと侍れはとてとまり給ぬれいのことにふれてすさましけによをもてなすと
にくゝおほすいかゝはせむほいならさりし事とてをろかにやはと思よはり給て
御しつらひなとうちあはぬすみかなれとさるかたにおかしくしなしてまちきこ
え給けりはるかなる御なかみちをいそきおはしましたりけるもうれしきわさな
るそかつはあやしきさうしみはわれにもあらぬさまにてつくろはれたてまつり
給まゝにこき御そのいといたくぬるれはさかし人もうちなき給つゝ世中にひさ
しくもとおほえ侍らねはあけくれのなかめにもたゝ御ことをのみなん心くるし
くおもひきこゆるにこの人　くもよかるへきさまのことゝきゝにくきまていひ
しらすめれはとしへたる心ともにはさりともよのことはりをもしりたらむはか
はかしくもあらぬ心ひとつをたてゝかくてのみやはみたてまつらむと思なるや
うもありしかとたゝいまかくおもひもあへすはつかしきことゝもにみたれおも
ふへくはさらに思かけ侍らさりしにこれやけに人のいふめるのかれかたき御ち
きりなりけんいとこそくるしけれすこしおほしなくさみなむにしらさりしさま
をもきこえんにくしとなおほしいりそつみもそえたまふと御くしをなてつくろ
ひつゝきこえ給へはいらへもし給はねとさすかにかくおほしの給ふかけにうし
ろめたくあしかれともおほしをきてしを人わらへにみくるしきことそひてみあ
つかはれたてまつらむかいみしさをよろつに思ゐ給へりさる心もなくあきれ給
へりしけはひたになへてならすおかしかりしをまいてすこしよのつねになよひ
給へるは御心さしもまさるにたはやすくかよひたまはさらむ山みちのはるけさ
もむねいたきまておほして心ふかけにかたらひたのめ給へとあはれともいかに
とも思わき給はすいひしらすかしつくものゝひめ君もすこしよのつねの人けち
かくおやせうとなといひつゝ人のたゝすまゐをもみなれ給へるはものゝはつか
しさもおそろしさもなのめにやあらむいゑにあかめきこゆる人こそなけれかく
山ふかき御あたりなれは人にとをくものふかくてならひ給へる心ちに思かけぬ
ありさまのつゝましくはつかしくなにことも世の人にゝすあやしくゐ中ひたら
むかしはかなき御いらへにてもいひいてんかたなくつゝみ給へりさるはこの君

しもそらう　くしくかとあるかたのにほひはまさり給へる三日にあたるよもちいなむまいると人　くのきこゆれはことさらにさるへきいはゐの事にこそはとおほして御まへにてせさせ給ふもたと　くしくかつはおとなになりてをきて給も人のみるらむことはゝかられておもてうちあかめておはするさまいとおかしけなりこのかみ心にやのとかにけたかきものから人のためあはれになさけ　くしくそおはしける中納言殿よりよへまいらむとおもたまへしかと宮つかへのらうもしるしなけなるよにおもたまへうらみてなむこよひはさうやくもやとおもふ給へれとゝのゐ所のはしたなけに侍りしみたり心ちいとゝやすからてやすらはれ侍とみちのくにかみにおいつきかき給てまうけの物ともこまやかにぬひなともせさりけるいろ　くおしまきなとしつゝみそひつあまたかけこ入ておい人のもとに人　くのれうにとて給へり宮の御かたにさふらひけるにしたかひていとおほくもえとりあつめ給はさりけるにやあらむたゝなるきぬあやなとしたにはいれかくしつゝ御れうとおほしきふたくたりいときよらにしたるをひとへの御その袖にこたゐの事なれと

さよ衣きてなれきとはいはすともかことはかりはかけすしもあらしとおとしきこえ給へりこなたかなたゆかしけなき御ことをはつかしくいとゝみ給て御かへりにもいかゝはきこえんとおほしわつらふほと御つかひかたへはにけかくれにけりあやしきしも人をひかへてそ御返たまふ

へたてなき心はかりはかよふともなれし袖とはかけしとそおもふ心あはたゝしくおもひみたれ給へるなこりにいとゝななをしきをおほしけるまゝとまちみ給人はたゝあはれにそおもひなされ給ふ宮はその夜内にまいり給てえまかてたまふましけなるを人しれす御心もそらにておほしなけきたるに中宮猶かくひとりおはしましてよのなかにすい給へる御名のやう　くきこゆる猶いとあしきことなりなに事もものこのましくたてたる御心なつかひ給そうへもうしろめたけにおほしの給ふとさとすみかちにおはしますをいさめきこえ給へはいとくるしとおほして御とのゐ所にいて給て御ふみかきてたてまつれ給へるなこりもいたくうちなかめておはしますに中納言のきみまいり給へりそなたの心よせとおほせはれいよりもうれしくていかゝすへきいとかくゝらくなりぬめるを心もみたれてなむとなけかしけにおほしたりよく御けしきをみたてまつらむとおほしてひころへてかくまいり給へるをこよひさふらはせ給はていそきまかて給なむいとゝよろしからぬことにやおほしきこえさせたまはん大はん所のかたにてうけたまはりつれは人しれすわつらはしき宮つかへのしるしにあひなきかむた

うにや侍らむとかほの色たかひ侍りつると申給へはいときゝにくゝそおほしの
給ふやおほくは人のとりなすことなるへしよにとかめあるはかりの心はなにこ
とにかはつかふらむところせき身のほとこそ中　くなるわさなりけれとてまこ
とにいとはしくさへおほしたりいとをしくみたてまつり給ておなし御さはかれ
にこそはおはすなれこよひのつみにはかはりきこえて身をもいたつらになし侍
なむかしこはたの山にむまはいかゝ侍へきいとゝものゝきこえやさはり所なか
らむときこえ給へはたゝくれにくれてふけにける夜なれはおほしわひて御むま
にていて給ぬ御ともにはなか　くつかうまつらし御うしろみをとてこの君は内
にさふらひ給ふ中宮の御かたにまいり給つれは宮はいて給ぬなりあさましくい
とをしき御さまかないかに人みたてまつるらむうへきこしめしてはいさめきこ
えぬかいふかひなきとおほしの給ふこそわりなけれとの給あまたみやたちのか
くおとなひとゝのひ給へと大宮はいよ　くわかくおかしきけはひなんまさり給
ける女一の宮もかくそおはしますへかめるいかならむおりにかはかりにてもも
のちかく御こゑをたにきゝたてまつらむとあはれとおほゆすいたる人のおほゆ
ましき心つかふらむもかうやうなる御なからひのさすかにけとをからすいりた
ちて心にかなはぬおりの事ならむかしわか心のやうにひか　くしき心のたくひ
やは又世にあむへかめるそれに猶うこきそめぬるあたりはえこそおもひたえね
なと思ひゐ給へるさふらふかきりの女はうのかたち心さまいつれとなくわろひ
たるなくめやすくとりとりにおかしきなかにあてにすくれてめにとまるあれと
さらに　くみたれそめしの心にていときすくにもてなし給へりことさらにみえ
しらかふ人もありおほかたはつかしけにもてしつめ給へるあたりなれはうはへ
こそ心はかりもてしつめたれ心　くなるよの中なりけれはいろめかしけにすゝ
みたるしたの心もりてみゆるもあるをさま　くにおかしくもあはれにもあるか
なとたちてもゐてもたゝつねなきありさまを思ありき給かしこには中納言殿の
こと　くしけにいひなし給へりつるを夜ふくるまておはしまさて御ふみのある
をされはよとむねつふれておはするによなかちかくなりてあらましき風のきほ
ひにいともなまめかしくきよらにてにほひおはしたるもいかゝおろかにおほえ
給はむさうしみもいさゝかうちなひきて思しり給ふことあるへしいみしくおか
しけにさかりとみえてひきつくろひ給へるさまはましてたくひあらしはやとお
ほゆさはかりよき人をおほくみ給ふ御めにたにけしうはあらすとかたちよりは
しめておほくちかまさりしたりとおほさるれは山さとの老人ともはましてくち
つきにくけにうちゑみつゝかくあたらしき御ありさまをなのめなるきはの人の

みたてまつり給はましかはいかにくちをしからまし思ふやうなる御すくせときこえつゝひめ宮の御心をあやしくひか　くしくもてなし給をもときくちひそみきこゆさかりすきたるさまともにあさやかなる花の色　くにつかはしからぬをさしぬひつゝありつかすとりつくろひたるすかたとものつみゆるされたるもなきをみわたされ給てひめ宮我もやう　くさかりすきぬる身そかしかゝみをみれはやせ　くになりもて行をのかしゝはこの人ともゝわれあしとやはおもへるうしろてはしらすかほにひたひかみをひきかけつゝいろとりたるかほつくりをよくしてうちふるまふめりわか身にてはまたいとあれかほとにはあらすめもはなもなをしとおほゆるは心のなしにやあらむとうしろめたくてみいたしてふし給へりはつかしけならむ人にみえむことはいよ　くかたはらいたくいまひとゝせふたとせあらはおとろへまさりなむはかなけなる身のありさまをと御てつきのほそやかにかよはくあはれなるをさしいてゝも世中を思つゝけ給宮はありかたかりつる御いとまのほとをおほしめくらすに猶心やすかるましきことにこそはとむねふたかりておほえ給けり大宮のきこえ給しさまなとかたりきこえ給て思なからとたえあらむをいかなるにかとおほすな夢にてもをろかならむにかくまてもまいりくましきを心のほとやいかゝとうたかひて思みたれ給はむか心くるしさに身をすてゝなむつねにかくはえまとひありかしさるへきさまにてちかくわたしたてまつらむといとふかくきこえ給へとたえまあるへくおほさるらむはをとにきゝし御心のほとしるへきにやと心をかれてわか御ありさまからさま

　くものなけかしくてなむありけるあけ行ほとのそらにつまとおしあけ給てもろともにいさなひいてゝみ給へはきりわたれるさま所からのあはれおほくそひてれいのしはつむ舟のかすかに行かふあとのしらなみめなれすもあるすまゐのさまかなといろなる御心にはおかしくおほしなさる山のはのひかりやう　くみゆるに女君の御かたちのまほにうつくしけにてかきりなくいつきすへたらむひめ宮もかはかりこそはおはすへかめれ思なしのわかゝたさまのいといつくしきそかしこまやかなるにほひなとうちとけてみまほしくなか　くなる心ちす水のをとなひなつかしからすうちはしのいとものふりてみえわたさるゝなときりはれゆけはいとゝあらましききしのわたりをかゝる所にいかてとしをへたまふらむなとうち涙くみ給へるをいとはつかしときゝ給ふおとこの御さまのかきりなくなまめかしくきよらにてこの世のみならすちきりたのめきこえ給へはおもひよらさりしことゝは思なから中　くかのめなれたりし中納言のはつかしさよりはとおほえ給かれはおもふかたことにていといたくすみたるけしきのみえにく

ゝはつかしけなりしによそにおもひきこえしはましてこよなくはるかにひとく
たりかきいて給ふ御返事たにつゝましくおほえしをひさしくとたえ給はむは心
ほそからむと思ならるゝもわれなからうたてと思ひしり給人　くいたくこはつ
くりもよほしきこゆれは京におはしまさむほとはしたなからぬほとにといと心
あはたゝしけにて心よりほかならむよかれを返ゝのたまふ
　なかたえむものならなくにはしひめのかたしく袖やよはにぬらさんいてか
てにたちかへりつゝやすらひたまふ
　たえせしのわかたのみにやうちはしのはるけき中をまちわたるへきことに
はいてねとものなけかしき御けはひはかきりなくおほされけりわかき人の御心
にしみぬへくたくひすくなけなるあさけの御すかたをみをくりてなこりとまれ
る御うつりかなとも人しれすものあはれなるはされたる御心かなけさそものゝ
あやめみゆるほとにて人　くのそきてみたてまつる中納言殿はなつかしくはつ
かしけなるさまそそひ給へりける思なしのいまひときはにやこの御さまはいと
ことになとめてきこゆみちすから心くるしかりつる御気色をおほしいてつゝた
ちもかへりなまほしくさまあしきまておほせと世のきこえをしのひてかへらせ
給ほとにえたはやすくもまきれさせ給はす御ふみはあくる日ことにあまたかへ
りつゝたてまつらせ給をろかにはあらぬにやと思なからおほつかなき日かすの
つもるをいと心つくしにみしと思しものを身にまさりてこゝろくるしくもある
かなとひめ宮はおほしなけかるれといとゝこの君のおもひしつみ給はむにより
つれなくもてなして身つからたに猶かゝる事思くはへしといよ　くふかくおほ
す中納言の君もまちとをにそおほすらむかしと思やりてわかあやまちにいとを
しくて宮をきこえおとろかしつゝたえす御けしきをみ給にいとゐたくおもほし
いれたるさまなれはさりともとうしろやすかりけり九月十日のほとなれは野山
のけしきもおもひやらるゝにしくれめきてかきくらしそらのむら雲おそろしけ
なる夕くれ宮いとゝしつ心なくなかめ給ていかにせむと御心ひとつをいてたち
かね給おりをしはかりてまいり給へりふるの山さといかならむとおとろかしき
こえ給いとうれしとおほしてもろともにいさなひ給へはれいのひとつ御くるま
にておはすわけいり給まゝにそまいてなかめ給ふらむ心のうちいとゝをしはか
られ給みちのほともたゝこの事の心くるしきをかたらひきこえ給ふたそかれ時
のいみしく心ほそけなるにあめはひやゝかにうちそゝきて秋はつるけしきのす
こきにうちしめりぬれ給へるにほひともは世のものにゝすえむにてうちつれ給
へるを山かつともはいかゝ心まとひもせさらむ女はらひころうちつふやきつる

なこりなくえみさかえつゝおましひきつくろひなとす京にさるへき所　くに行ちりたるむすめともめいたつ人二三人たつねよせてまいらせたりとしころあなつりきこえける心あさき人ゝめつらかなるまらうとゝ思おとろきたりひめ宮もおりうれしく思きこえ給ふにさかしら人のそひ給へるそはつかしくもありぬへくなまわつらはしくおもへと心はへののとかにものふかくものし給をけに人はかくはおはせさりけりとみあはせ給にありかたしと思しらる宮を所につけてはいとことにかしつきいれたてまつりてこの君はあるしかたに心やすくもてなし給ものからまたまらうとゐのかりそめなるかたにいたしはなち給へれはいとからしと思給へりうらみ給もさすかにゐとをしくてものこしにたいめむし給ふたはふれにくゝもあるかなかくてのみやといみしくうらみきこえ給やう　くことはりしり給にたれと人の御うへにても物をいみしく思しつみ給ていとゝかゝるかたをうきものに思はてゝ猶ひたふるにいかてかくうちとけしあはれとおもふ人の御心もかならすつらしと思ぬへきわさにこそあめれわれも人もみおとさす心たかはてやみにしかなとおもふ心つかひふかくし給へり宮の御ありさまなともとひきこえ給へはかすめつゝされはよとおほしくの給へはいとをしくておほしたる御さまけしきをみありくやうなとかたりきこえ給ふれいよりは心うつくしくかたらひてなをかくもの思ひくはふるほとすこし心ちもしつまりてきこえむとの給ふ人にくゝけとをくはもてはなれぬものからさうしのかためもいとつよししゐてやふらむをはつらくいみしからむとおほしたれはおほさるゝやうこそはあらめかる　くしくことさまになひき給ことはたよにあらしと心のとかなる人はさいへといとよく思しつめ給たゝいとおほつかなくものへたてたるなむむねあかぬ心ちするをありしやうにてきこえむとせめ給へとつねよりもわかおもかけにはつるころなれはうとましとみ給てむもさすかにくるしきはいかなるにかとほのかにうちわらひ給へるけはひなとあやしくなつかしくおほゆかゝる御心にたゆめられたてまつりてつゐにいかになるへき身にかとなけきかちにてれいのとを山とりにてあけぬ宮はまたゝひねなるらむともおほさて中納言のあるしかたに心のとかなるけしきこそうらやましけれとの給へは女君あやしときゝ給わりなくておはしましてほとなくかへり給るかあかすくるしきにみやものをいみしくおほしたり御心のうちをしり給はねは女かたには又いかならむ人わらへにやと思なけき給へはけに心つくしにくるしけなるわさかなとみゆ京にもかくろへてわたり給へき所もさすかになし六条院には左のおほいとのかたつかたにはすみ給てさはかりいかてとおほしたる六の君の御ことをおほしよらぬに

なまうらめしと思きこえ給ふへかめりすき　くしき御さまとゆるしなくそしりきこえ給てうちわたりにもうれへきこえ給ふへかめれはいよ　くおほえなくていたしすえ給はむもはゝかることいとおほかりなへてにおほす人のきはゝ宮つかへのすちにて中　く心やすけなりさやうのなみ　くにはおほされすもし世中うつりてみかときさいのおほしをきつるまゝにもおはしまさは人よりたかきさまにこそなさめなとたゝいまはいとはなやかに心にかゝり給へるまゝにもてなさむかたなくくるしかりけり中納言は三条の宮つくりはてゝさるへきさまにてわたしたてまつらむとおほすけにたゝ人は心やすかりけりかくいと心くるしき御けしきなからやすからすしのひ給ふからにかたみに思なやみ給へるめるも心くるしくてしのひてかくかよひ給よしを中宮なとにもゝらしきこしめさせてしはしの御さはかれはいとをしくとも女かたの御ためはとかもあらしいとかくよをたにあかし給はぬくるしけさよいみしくもてなしてあらせたてまつらはやなと思てあなかちにもかくろへす衣かへなとはか　くしくたれかはあつかふらむなとおほして御丁のかたひらかへしろなと三条の宮つくりはてゝわたり給はむ心まうけにしをかせ給へるをまつさるへきようなむなといとしのひてきこえ給てたてまつれ給さま　くなる女はうのさうそく御めのとなとにもの給ひつゝわさともせさせ給ひけり十月一日ころあしろもおかしきほとならむとそゝのかしきこえ給てもみち御らんすへく申給ふしたしき宮人とも殿上人のむつましくおほすかきりいとしのひてとおほせと所せき御いきほひなれはをのつから事ひろこりて左のおほいとのゝ宰相中将まいり給さてはこの中納言殿はかりそかむたちめはつかふまつり給ふたゝ人はおほかりかしこにはろなくなかやとりし給はむをさるへきさまにおほせさきのはるも花みにたつねまいりこしこれかれかゝるたよりにことよせてしくれのまきれにみたてまつりあらはすやうもそ侍なとこまやかにきこえ給へりみすかけかへこゝかしこかきはらひいはかくれにつもれる紅葉のくちはすこしはるけやり水のみ草はらはせなとそし給よしあるくた物さかなゝとさるへき人なともたてまつれ給へりかつはゆかしけなけれといかゝはせむこれもさるへきにこそはと思ゆるして心まうけし給へりふねにてのほりくたりおもしろくあそひ給もきこゆほの　くありさまみゆるをそなたにたちいてゝわかき人ゝみたてまつるさうしみの御ありさまはそれとみわかねともみちをふきたるふねのかさりのにしきとみゆるにこゑ　くふきいつるものゝねとも風につけておとろ　くしきまておほゆよ人のなひきかしつきたてまつるさまかくしのひ給へるみちにもいとことにいつくしきをみ給にもけにたなはたは

かりにてもかゝるひこほしの光をこそまちいてめとおほえたりふみつくらせ給へき心まうけにはかせなともさふらひけりたそかれ時に御ふねさしよせてあそひつゝふみつくり給もみちをうすくこくかさして海仙楽といふ物をふきてをの
　く心ゆきたるけしきなるに宮はあふみのうみの心ちしてをちかた人のうらみいかにとのみ御心そらなり時につけたるたいいたしてうそふきすしあへり人のまよひすこししつめておはせむと中納言もおほしてさるへきやうにきこえ給ほとに内より中宮のおほせ事にて宰相の御あにの衛門督こと　くしきすいしんひきつれてうるはしきさましてまいり給へりかうやうの御ありきはしのひ給ふとすれとをのつからことひろこりてのちのためしにもなるわさなるをおも　くしき人数あまたもなくてにはかにおはしましにけるをきこしめしおとろきて殿上人あまたくしてまいりたるにはしたなくなりぬ宮も中納言もくるしとおほしてものゝけうもなくなりぬ御心のうちをはしらすえひみたれあそひあかしつけふはかくてとおほすにまた宮の大夫さらぬ殿上人なとあまたゝてまつり給へり心あはたゝしくくちおしくてかへりたまはむそらなしかしこには御ふみをそたてまつれ給おかしやかなることもなくいとまめたちておほしけることゝもをこま
　くとかきつつけ給へれと人めしけくさはかしからむにとて御かへりなしかすならぬありさまにてはめてたき御あたりにましらはむかひなきわさかなといとゝおほししり給よそにてへたゝるつき日はおほつかなさもことはりにさりともなとなくさめ給をちかきほとにのゝしりおはしてつれなくすき給ひなむつらくもくちおしくも思みたれ給宮はましていふせくわりなしとおほすことかきりなしあしろのひをも心よせたてまつりていろ　くのこの葉にかきませもてあそふをしも人なとはいとおかしきことにおもへれは人にしたかひつゝこゝろゆく御ありきに身つからの御心ちはむねのみつとふたかりてそらをのみなかめ給ふにこのふる宮のこするゑはいとことにおもしろくときは木にはひましれるつたの色なとも物ふかけにみえてとをめさへすこけなるを中納言の君もなか　くたのめきこえけるをうれはしきわさかなとおほゆこそのはる御ともなりし君たちははなの色を思いてゝをくれてこゝになかめ給らむ心ほそさをいふかくしのひ　くにかよひ給ふとほのきゝたるもあるへし心しらぬもましりておほかたにとやかくやと人の御うへはかゝる山かくれなれとをのつからきこゆるものなれはいとおかしけにこそものし給なれさうのことしやうすにてこ宮のあけくれあそひならはし給けれはなとくち　くいふ宰相中将
　いつそやも花のさかりにひとめみし木のもとさへや秋はさひしきあるしか

たと思ていへは中納言

さくらこそ思しらすれさきにほふ花ももみちもつねならぬよを衛門督

いつこより秋は行けむやまさとの紅葉のかけはすきうきものを宮大夫

みし人もなき山さとの岩かきに心なかくもはへるくす哉なかにおいしらひてうちなき給みこのわかくおはしけるよの事なと思ひいつるなめり宮

秋はてゝさひしさまさる木のもとを吹なすくしそみねの松かせとていといたくなみたくみ給へるをほのかにしる人はけにふかくおほすなりけりけふのたよりをすくし給心くるしさとみたてまつる人あれとこと　くしくひきつゝきてえおはしましよらすつくりけるふみのおもしろき所　くうちすしやまとうたもことにつけておほかれとかうやうのえひのまきれにましてはか　くしきことあらむやはかたはしかきとゝめてたにみくるしくなむかしこにはすき給ぬるけはひをとをくなるまてきこゆるさきのころ　くたゝならすおほえ給心まうけしつるひと　くもいとくちおしと思へりひめ宮はましてなをゝとにきくつき草のいろなる御心なりけりほのかに人のいふをきけはおとこといふものはそらことをこそいとよくすなれおもはぬ人をおもふかほにとりなすことのはおほかるものとこの人かすならぬ女はらのむかしものかたりにいふをさるななをしきなかにこそはけしからぬこゝろあるもましるらめなに事もすちことなるきはになりぬれは人のきゝおもふことつゝましくところせかるへきものとおもひしはさしもあるましきわさなりけりあためき給へるやうにこ宮もきゝつたへ給てかやうにけちかきほとまてはおほしよらさりしものをあやしきまて心ふかけにの給ひわたり思のほかにみたてまつるにつけてさへ身のうさを思ひそふるかあちきなくもあるかなかくみをとりする御心をかつはかの中納言もいかに思給らむこゝにもことにはつかしけなる人はうちましらねとをの　くおもふらむか人わらへにおこかましきことゝ思みたれ給に心ちもたかひていとなやましくおほえ給さうしみはたまさかにたいめむし給ときかきりなくふかきことをたのめちきり給つれはさりともこよなうはおほしかはらしとおほつかなきもわりなきさはりこそはものし給らめと心のうちに思なくさめ給かたありほとへにけるか思ひゐれられ給はぬにしもあらぬに中　くにてうちすき給ぬるをつらくもくちをしくもおもほゆるにいとゝものあはれなりしのひかたき御けしきなるを人なみ　くにもてなしてれいの人めきたるすまいならはかうやうにもてなし給ふましきをなとあね宮はいとゝしくあはれとみたてまつり給ふわれも世になからへはかうやうなることみつへきにこそはあめれ中納言のとさまかうさまにいひありき給も

人の心をみむとなりけり心ひとつにもてはなれておもふともこしらへやるかきりこそあれある人のこりすまにかゝるすちのことをのみいかてと思ためれは心よりほかにつゐにもてなされぬへかめりこれこそはかへす　くさる心してよをすくせとの給ひをきしはかゝることもやあらむのいさめなりけりさもこそはうき身ともにてさるへき人にもをくれたてまつらめやうのものと人わらへなることをそふるありさまにてなき御かけをさへなやましたてまつらむかいみしさなるをわれたにさるもの思ひにしつますつみなといとふかゝらぬさきにいかてなくなりなむとおほししつむにこゝちもまことにくるしけれはものもつゆはかりまいらすたゝなからむのちのあらましことをあけくれ思つゝけ給にも心ほそくてこの君をみたてまつり給もいと心くるしくわれにさへをくれたまひていかにいみしくなくさむかたなからむあたらしくおかしきさまをあけくれのみものにていかて人〳〵しくもみなしたてまつらむと思ひあつかふをこそ人しれぬ行さきのたのみにも思ひつれかきりなき人にものし給ともかはかり人わらへなるめをみてむ人の世中にたちましりれいの人さまにてへ給はんはたくひすくなく心うからむなとおほしつゝくるにいふかひもなくこの世にはいさゝか思なくさむかたなくてすきぬへき身ともなりけりと心ほそくおほす宮はたちかへりれいのやうにしのひてといてたち給けるを内にかゝる御しのひことにより山さとの御ありきもゆくりかにおほしたつなりけりかろ　くしき御ありさまと世人もしたにそしり申なりと衛門督のもらし申給けれは中宮もきこしめしなけきうへもいとゝゆるさぬ御けしきにておほかた心にまかせ給へる御さとすみのあしきなりときひしきことゝもいてきて内につとさふらはせたてまつり給左のおほい殿の六の君をうけひかすおほしたる事なれとおしたちてまいらせ給へくみなさためらる中納言殿きゝ給てあいなくものを思ありき給わかあまりことやうなるそやさるへき契やありけむみこのうしろめたしとおほしたりしさまもあはれにわすれかたくこの君たちの御ありさまけはひもことなる事なくて世におとろへ給はむことのおしくもおほゆるあまりに人〳〵しくもてなさはやとあやしきまてもてあつかはるゝに宮もあやにくにとりもちてせめ給しかはわかおもふかたはことなるにゆつらるゝありさまもあいなくてかくもてなしてしを思へはくやしくもありけるかないつれもわか物にてみたてまつらむにとかむへき人もなしかしととりかへすものならねとおこかましく心ひとつに思ひみたれ給宮はまして御こゝろにかゝらぬおりなくこひしくうしろめたしとおほす御心につきておほす人あらはこゝにまいらせてれいさまにのとやかにもてなし給へすちことに思きこえ

給へるにかるひたるやうに人のきこゆへかめるもいとなむくちをしきと大宮はあけくれきこえ給しくれいたくしてのとやかなる日女一宮の御かたにまいり給つれは御まへに人おほくもさふらはすしめやかに御ゐなむと御らんするほとなり御木丁はかりへたてゝ御物かたりきこえ給かきりもなくあてにけたかきものからなよひかにおかしき御けはひをとしころふたつなきものに思ひきこえ給て又この御ありさまになすらふ人よにありなむや冷泉院のひめ宮はかりこそ御おほえのほとうち　くの御けはひも心にくゝきこゆれとうちいてむかたもなくおほしわたるにかの山さと人はらうたけにあてなるかたのおとりきこゆましきそかしなとまつ思いつるにいとゝこひしくてなくさめに御ゐとものあまたちりたるをみ給へはおかしけなる女ゐとものこひするおとこのすまゐなとかきませ山さとのおかしきいゐゐなと心　くに世のありさまかきたるをよそへらるゝ事おほくて御めとまりたまへはすこしきこえ給てかしこへたてまつらむとおほすさい五かものかたりをかきていもうとにきむをしへたる所の人のむすはんといひたるをみていかゝおほすらんすこしちかくまいりより給ていにしへの人もさるへきほとはへたてなくこそならはして侍けれいとうと　くしくのみもてなさせ給こそとしのひてきこえ給へはいかなるゐにかとおほすにおしまきよせて御まへにさしいれ給へるをうつふして御らむする御くしのうちなひきてこほれいてたるかたそはゝかりほのかにみたてまつり給るあかすめてたくすこしもゝのへたてたる人と思きこえましかはとおほすにしのひかたくて

わか草のねみむものとはおもはねとむすほゝれたる心ちこそすれ御まへなる人ゝはこの宮をはことにはちきこえてものゝうしろにかくれたりことしもこそあれうたてあやしとおほせはものもの給はすことはりにてうらなくものをといひたるひめ君もされてにくゝおほさるむらさきのうへのとりわきてこのふた所をはならはしきこえ給しかはあまたの御なかにへたてなく思かはしきこえ給へり世になくかしつきゝこえ給てさふらふ人ゝもかたほにすこしあかぬところあるははしたなけなりやむことなき人の御むすめなともいとおほかり御心のうつろひやすきはめつらしき人ゝにはかなくかたらひつきなとし給つゝかのわたりをおほしわするゝおりなきものからをとつれ給はて日ころへぬまちきこえ給ところはたえまとをき心ちして猶かくなめりと心ほそくなかめ給ふに中納言おはしたりなやましけにし給ときゝて御とふらひなりけりいと心ちまとふはかりの御なやみにもあらねとことつけてたいめむし給はすおとろきなからはるけきほとをまいりきつるを猶かのなやみ給ふらむ御あたりちかくとせちにおほつか

なかりきこえ給へはうちとけてすまゐ給へるかたのみすのまへにいれたてまつるいとかたはらいたきわさとくるしかり給へとけにくゝはあらて御くしもたけ御いらへなときこえ給宮の御心もゆかておはしすきにしありさまなとかたりきこえ給てのとかにおほせ心いられしてなうらみきこえ給そなとをしへきこえ給へはこゝにはともかくもきこえたまはさめりなき人の御いさめはかゝることにこそとみ侍はかりなむいとおしかりけるとてなき給気色なりいと心くるしくわれさへはつかしき心ちして世中はとてもかくてもひとつさまにてすくすことかたくなむ侍をいかなる事をも御らんししらぬ御こゝろともにはひとへにうらめしなとおほすこともあらむをしゐておほしのとめようしろめたくはよにあらしとなん思はへるなと人の御うへをさへあつかふもかつはあやしくおほゆよる

くはましていとくるしけにし給けれはうとき人の御けはひのちかきもなかの宮のくるしけにおほしたれは猶れいのあなたにと人〻きこゆれとましてかくわつらひ給ほとのおほつかなさを思のまゝにまいりきていたしはなち給へれはいとわりなくなむかゝるおりの御あつかひもたれかははか　くしくつかうまつるなと弁のおもとにかたらひ給てみす法ともはしむへきことの給いとみくるしくことさらにもいとはしき身をときゝ給へと思くまなくのたまはむもうたてあれはさすかになからへよと思ひ給へる心はえもあはれなり又のあしたにすこしもよろしくおほさるやきのふはかりにてたにきこえさせむとあれはひころふれはにやけふはいとくるしくなむさらはこなたにといひいたし給へりいとあはれにいかにものし給へきにかあらむありしよりはなつかしき御けしきなるもむねつふれておほゆれはちかくよりてよろつのことをきこえ給てくるしくてえきこえすすこしためらはむほとにとていとかすかにあはれなるけはひをかきりなく心くるしくてなけきゐ給へりさすかにつれ　くとかくておはしかたけれはいとうしろめたけれとかへり給かゝる御すまゐは猶くるしかりけりところさり給にことよせてさるへき所にうつろはしたてまつらむなときこえをきてあさりにも御いのり心にいるへくのたまひしらせていて給ぬこの君の御ともなる人のいつしかとこゝなるわかき人をかたらひよりたるなりけりをのかしゝの物かたりにかの宮の御しのひありきせいせられ給て内にのみこもりおはしますひたりのおほいとのゝ君をあはせたてまつり給へるなるをむなかたはとしころの御ほいなれはおほしとゝこほる事なくてとしのうちにありぬへかなり宮はしふ　くにおほして内わたりにもたゝすきかましき事に御心をいれてみかときさいの御いましめにしつまり給へくもあらさめりわか殿こそなをあやしく人にゝ給はすあま

りまめにおはしまして人にはもてなやまれ給へこゝにかくわたり給のみなむめもあやにおほろけならぬことゝ人申なとかたりけるをさこそいひつれなと人〻の中にてかたるをきゝ給にいとゝむねふたかりていまはかきりにこそあなれやむことなきかたにさたまり給はぬなをさりの御すさひにかくまておほしけむをさすかに中納言なとのおもはんところをおほしてことのはのかきりふかきなりけりと思なし給にともかくも人の御つらさは思ひしらすいとゝ身のをき所のなき心ちしてしほれふし給へりよはき御心ちはいとゝ世にたちとまるへくもおほえすはつかしけなる人〻にはあらねと思らむところのくるしけれはきかぬやうにてねたまへるを中の君ものおもふ時のわさときゝしうたゝねの御さまのいとらうたけにてかいなをまくらにてね給へるに御くしのたまりたるほとなとありかたくうつくしけなるをみやりつゝおやのいさめしことのはもかへす　くおもひいてられ給てかなしけれはつみふかゝなるそこにはよもしつみ給はしいつこにも　くおはすらむかたにむかへ給ひてよかくいみしくものおもふ身ともをうちすて給て夢にたにみえ給はぬよと思つゝけ給ゆふくれのそらのけしきいとすこくしくれてこのしたふきはらふ風のをとなとにたとへんかたなくきしかた行さきおもひつゝけられてそひふし給へるさまあてにかきりなくみえたまふしろき御そにかみはけつることもし給はてほとへぬれとまよふすちなくうちやられてひころにすこしあをみ給へるしもなまめかしさまさりてなかめいたし給へるまみひたいつきのほともみしらん人にみせまほしひるねの君風のいとあらきにおとろかされておきあかり給へり山ふきうす色なとはなやかなる色あひに御かほはことさらにそめにほはしたらむやうにいとおかしくはなはなとしていさゝか物おもふへきさまもし給へらすこ宮の夢にみえ給つるいとものおほしたるけしきにてこのわたりにこそほのめき給つれとかたり給へはいとゝしくかなしさそひてうせ給てのちいかて夢にもみたてまつらむとおもふをさらにこそみたてまつらねとてふた所なからいみしくなき給このころあけくれ思いてたてまつれはほのめきもやおはすらむいかておはすらむ所にたつねまいらむつみふかけなる身ともにてとのちのよをさへ思ひやり給人の国にありけむかうのけふりそいとえまほしくおほさるゝみとくらくなるほとに宮より御つかひありおりはすこしもの思ひなくさみぬへし御かたはとみにもみ給はす猶心うつくしくおひらかなるさまにきこえ給へかくてはかなくもなり侍なはこれよりなこりなきかたにもてなしきこゆる人もやいてこむとうしろめたきをまれにもこの人の思ひいてきこえ給はむにさやうなるあるましき心つかふ人はえあらしと思へはつらきな

からなむたのまれ侍ときこえ給へはをくらさむとおほしけるこそいみしく侍れといよ　くかほをひきいれ給かきりあれはかた時もとまらしと思しかとなからふるわさなりけりと思侍そやあすしらぬよのさすかになけかしきもたかためおしきいのちにかはとておほとなふらまいらせてみ給ふれいのこまやかにかき給て

なかむるはおなし雲井をいかなれはおほつかなさをそふる時雨そかくそてひつるなといふこともやありけむみゝなれにたるをなをあらしことゝみるにつけてもうらめしさまさり給さはかり世にありかたき御ありさまかたちをいとゝいかて人にめてられむとこのましくえむにもてなし給へれはわかき人の心よせたてまつり給はむことはりなりほとふるにつけてもこひしくさはかりところせきまて契をき給しをさりともいとかくてはやましと思なをす心そつねにそひける御返こよひまいりなんときこゆれはこれかれそゝのかしきこゆれはたゝひとことなん

あられふるみ山のさとはあさ夕になかむる空もかきくらしつゝかくいふは神な月のつこもりなりけり月もへたゝりぬるよと宮はしつ心なくおほされてこよひこよひとおほしつゝさはりおほみなるほとに五節なととくいてきたるとしにて内わたりいまめかしくまきれかちにてわさともなけれとすくい給ほとにあさましくまちとをなりはかなく人をみ給につけてもさるは御心にはなるゝをりなし左のおほいとのゝわたりの事大宮も猶さるのとやかなる御うしろみをまうけ給てそのほかにたつねまほしくおほさるゝ人あらはまいらせておも　くしくもてなし給へときこえ給へとしはしさ思ふたまふるやうなむきこえいなひ給てまことにつらきめはいかてかみせむなとおほす御心をしり給はねは月日にそへてものをのみおほす中納言もみしほとよりはかろひたる御心かなさりともとおもひきこえけるもいとをしく心からおほえつゝおさ　くまいり給はすやまさとにはいかに　くととふらひきこえ給この月となりてはすこしよろしくおはすときゝ給けるにおほやけわたくしものさはかしきころにて五六日人もたてまつれ給はぬにいかならむとうちおとろかれたまいてわりなきことのしけさをうちすてゝまて給すほうはおこたりはて給まてとのたまひをきけるをよろしくなりにけりとてあさりをもかへし給ひけれはいと人すくなにてれゐの老人いてきて御ありさまきこゆそこはかといたきところもなくおとろ　くしからぬ御なやみにものをなむさらにきこしめさぬもとより人にゝ給はすあえかにおはしますうちにこのみやの御ことゐてきにしのちいとゝものおほしたるさまにてはかなき御

くたものをたに御らむしいれさりしつもりにやあさましくよはくなり給てさら
にたのむへくもみえ給はすよに心うく侍ける身のいのちのなかさにてかゝるこ
とをみたてまつれはまついかてさきたちきこえむと思給へゐり侍といひもやら
すなくさまことはりなり心うくなとかゝくともつけ給はさりける院にも内にも
あさましくことしけきころにて日ころもえきこえさりつるおほつかなさとてあ
りしかたにいり給ふ御まくらかみちかくてものきこえ給へと御こゑもなきやう
にてえいらへたまはすかくおもくなり給まてたれも　くつけたまはさりけるか
つらくもおもふにかひなきことゝうらみてれいのあさりおほかた世にしるしあ
りときこゆる人のかきりあまたさうし給みすほうと経あくる日よりはしめさせ
給はむとてとの人あまたまいりつとひかみしもの人たちさはきたれは心ほそさ
のなこりなくたのもしけなりくれぬれはれいのあなたにときこえて御ゆつけな
とまいらむとすれとちかくてたにみたてまつらむとてみなみのひさしはさうの
座なれはひんかしおもてのいますこしちかきかたに屏風なとたてさせていり
ゐ給なかの宮くるしとおほしたれとこの御中を猶もてはなれたまはぬなりけり
とみなおもひてうとくもえもてなしへたてす初夜よりはしめて法花経をふたむ
にとませ給ふこゑたうときかきり十二人していとたうとし火はこなたのみなみ
のまにともしてうちはくらきに木丁をひきあけてすこしすへり入てみたてまつ
り給へは老人とも二三人そさふらふなかの宮はふとかくれ給ぬれはいと人すく
なに心ほそくてふし給へるをなとか御こゑをたにきかせたまはぬとて御てをと
らへておとろかしきこえ給へは心ちには思なからものいふかいとくるしくてな
ん日ころをとつれ給はさりつれはおほつかなくてすき侍ぬへきにやとくちをし
くこそ侍つれといきのしたにの給かくまたれたてまつるほとまてまいりこさり
けることゝてさくりもよゝとなき給御くしなとすこしあつくそおはしけるなに
のつみなる御心ちにか人のなけきおふこそかくあむなれと御みゝにさしあてゝ
ものをおほくきこえ給へはうるさうもはつかしうもおほえてかをゝふたき給へ
るをむなしくみなしていかなる心ちせむとむねもひしけておほゆひころみたて
まつり給つらむ御心ちもやすからすおほされつらむこよひたに心やすくうちや
すませ給へとのゐ人さふらふへしときこえ給へはうしろめたけれとさるやうこ
そはとおほしてすこししそき給へりひたおもてにはあらねとはひよりつゝみた
てまつり給へはいとくるしくはつかしけれとかゝるへき契こそはありけめとお
ほしてこよなうのとかにうしろやすき御心をかのかたつかたの人にみくらへた
てまつり給へはあはれとも思ひしられにたりむなしくなりなむのちのおもひて

にも心こはくおもひくまなからしとつゝみ給てはしたなくもえをしはなち給はすよもすから人をそゝのかして御ゆなとまいらせたてまつり給へとつゆはかりまいるけしきもなしいみしのわさやいかにしてかはかけとゝむへきとゐはむかたなくおもひい給へりふたむ経のあか月かたのゐかはりたるこゑのいとたうときにあさりもよひにさふらひてねふりたるうちおとろきてたらによむ老かれにたれといとくうつきてたのもしうきこゆいかゝこよひはおはしましつらむなときこゆるついてにこ宮の御ことなと申いてゝはなしは　くうちかみていかなる所におはしますらむさりともすゝしきかたにそと思ひやりたてまつるをさいつころの夢になむみえおはしましゝそくの御かたちにて世中をふかういとひはなれしかは心とまることなかりしをいさゝかうち思ひし事にみたれてなんたゝしはしねかひのところをへたゝれるをおもふなんいとくやしきすゝむるわさせよといとさたかにおほせられしをたちまちにつかうまつるへきことのおほえ侍らねはたへたるにしたかひておこなひし侍法師はら五六人してなにかしの念仏なんつかうまつらせ侍るさては思給へえたること侍りて常不軽をなむつかせはへるなと申にきみもいみしうなき給かの世にさへさまたけきこゆらんつみのほとをくるしき御心ちにもいとゝきえいりぬはかりおほえ給いかてかのまたさたまり給はさらむさきにまてゝおなし所にもときゝふし給へりあさりは事すくなにてたちぬこのさう不軽そのわたりのさと　く京まてありきけるをあか月のあらしにわひてあさりのさふらふあたりをたつねて中門のもとにゐていとたうとくつく廻向のするゑつかたの心はえいとあはれなりまらうともこなたにすゝみたる御心にてあはれしのはれ給はすなかの宮せちにおほつかなくておくのかたなる木丁のうしろにより給へるけはひをきゝ給てあさやかにゐなをり給て不軽のこゑはいかゝきかせ給ひつらむおも　くしきみちにはおこなはぬことなれとたうとくこそ侍けれとて

　霜さゆるみきはの千鳥うちわひてなくねかなしきあさほらけかなことはのやうにきこえ給つれなき人の御けはひにもかよひて思ひよそへらるれといらへにくゝて弁してそきこえ給ふ

　あかつきの霜うちはらひ鳴ちとりものおもふ人の心をやしるにつかはしからぬ御かはりなれとゆへなからすきこえなすかやうのはかなしこともつゝましけなる物からなつかしうかひあるさまにとりなし給ふものをいまはとてわかれなはいかなる心ちせむとまとひ給宮の夢にみえ給けむさまおほしあはするにかう心くるしき御ありさまともをあまかけりてもいかにみ給らむとおしはかられ

ておはしましみてらにも御す経せさせ給所　くのいのりのつかひいたしたてさせ給おほやけにもわたくしにも御いとまのよし申給てまつりはらへよろつにいたらぬ事なくし給へとものゝつみめきたる御やまゐにもあらさりけれはなにのしるしもみえすみつからもたいらかにあらむともほとけをもねむしたまはゝこそあらめなをかゝるつゐてにいかてうせなむこの君のかくそゐてのこりなくなりぬるをいまはもてはなれむかたなしさりとてかうをろかならすみゆめる心はえのみをとりしてわれも人もみえむか心やすからすうかるへきこともしいのちしゐてとまらはやまゐに事つけてかたちをもかへてむさてのみこそなかき心をもかたみにみはつへきわさなれと思しみ給てとあるにてもかゝるにてもいかてこのおもふこととしてむとおほすをさまてさかしきことはえうちいて給はてなかの宮に心ちのいよ　くたのもしけなくおほゆるをいむことなんいとしるしありていのちのふる事ときゝしをさやうにあさりにの給へときこえ給へはみなききさはきていとあるましき御事なりかくはかりおほしまとふめる中納言殿もいかゝあえなきやうにおもひきこえ給はむとにけなき事に思てたのもし人にも申つかねはくちをしうおほすかくこもりゐ給つれはきゝつきつゝ御とふらひにふりはえものし給人もありをろかにおほされぬことゝみ給へは殿人したしきけいしなとはをの　くよろつの御いのりをせさせなけきゝこゆとよのあかりはけふそかしと京思ひやり給風いとふ吹て雪のふるさまあはたゝしうあれまとふみやこにはいとかうしもあらしかしと人やりならす心ほそうてうとくてやみぬへきにやとおもふ契はつらけれとうらむへうもあらすなつかしううらうたけなる御もてなしをたゝしはしにてもれいになして思つることゝもゝかたらはゝやとおもひつゝけてなかめ給ひかりもなくてくれはてぬ

　かきくもり日かけもみえぬおく山に心をくらすころにもある哉たゝかくておはするをたのみにみな思きこえたりれいのちかきかたにゐ給へるにみ木丁なとを風のあらはに吹なせはなかの宮おくにいり給みくるしけなる人ゝもかゝやきかくれぬるほとにいとちかうよりていかゝおほさるゝ心ちに思ひのこすことなくねむしきこゆるかひなく御こゑをたにきかすなりにたれはいとこそわひしけれをくらかし給はゝいみしうつらからむとなく　くきこえ給ふものおほえすなりにたるさまなれとかほはいとよくかくし給へりよろしきひまあらはきこえまほしきことも侍れとたゝきえいるやうにのみなり行はくちをしきわさにこそといとあはれと思給へるけしきなるにいよ　くせきとゝめかたくてゆゝしうかく心ほそけに思ふとはみえしとつゝみ給へとこゑもおしまれすいかなる契にて

かきりなく思ひきこえなからつらきことおほくてわかれたてまつるへきにかすこしうきさまをたにみせ給はゝなむ思さますふしにもせむとまもれといよ　く
あはれけにあたらしくおかしき御ありさまのみみゆかいなゝともいとほそうなりてかけのやうによはけなるものからいろあひもかはらすしろううつくしけになよ　くとしてしろき御そとものなよひかなるにふすまをゝしやりてなかにみもなきひゐなをふせたらむ心ちして御くしはいとこちたうもあらぬほとにうちやられたる枕よりおちたるきはのつや　くとめてたうおかしけなるもいかにになり給なむとするそとあるへき物にもあらさめりとみるかおしきことたくひなしこゝらひさしくなやみてひきもつくろはぬけはひの心とけすはつかしけにかきりなうもてなしさまよう人にもおほうまさりてこまかにみるまゝにたましゐもしつまらむかたなしつゐにうちすて給なはよにしはしもとまるへきにもあらすいのちもしかきりありてとまるへうともふかき山にさすらへなむとすたゝいと心くるしうてとまり給はむ御ことをなん思きこゆるといらへさせたてまつらむとてかの御ことをかけ給へはかをかくし給へる御そてをすこしひきなをしてかくはかなかりける物を思ひくまなきやうにおほされたりつるもかひなけれはこのとまり給はむ人をおなしこと思ひきこえ給へとほのめかしきこえしにたかへ給はさらましかはうしろやすからましとこれのみなむうらめしきふしにてとまりぬへうおほえ侍との給へはかくいみしうものおもふへき身にやありけんいかにも　くことさまにこの世を思かゝつらふかたの侍らさりつれは御おもむけにしたかひきこえすなりにしいまなむくやしく心くるしうもおほゆるされともうしろめたくなおもひきこえ給そなとこしらへていとくるしけにし給へはすほうのあさりともめしいれさせさま　くにけむあるかきりしてかちまいらせさせ給ふわれも仏をねんせさせ給ふことかきりなし世中をことさらにいとひはなれねとすゝめ給ふ仏なとのいとかくいみしき物はおもはせ給にやあらむみるまゝにものかくれ行やうにてきえはて給ぬるはいみしきわさかなひきとゝむへきかたなくあしすりもしつへく人のかたくなしとみむこともおほえすかきりとみたてまつり給てなかの宮のをくれしとおもひまとひ給さまもことはりなりあるにもあらすみえ給をれいのさかしき女はらいまはいとゆゝしきことゝひきさけたてまつる中納言の君はさりともいとかゝる事あらし夢かとおほして御となふらをちかうかゝけてみたてまつり給にかくし給かほもたゝねたまへるやうにてかはりたまへるところもなくうつくしけにてうちふし給へるをかくなからむしのからのやうにてもみるわさならましかはと思まとはるいまはの事ともするに御く

しをかきやるにさとうちにほひたるたゝありしなからのにほひになつかしうかうはしきもありかたうなにことにてこの人をすこしもなのめなりしと思さまさむまことによの中を思すてはつるしるへならはおそろしけにうきことのかなしさもさめぬへきふしをたにみつけさせ給へと仏を念し給へといとゝ思のとめむかたなくのみあれはいふかひなくてひたふるにけふりにたになしはてゝむとおもほしてとかくれいのさほうともするそあさましかりけるそらをあゆむやうにたゝよひつゝかきりのありさまさへはかなけにてけふりもおほくむすほゝれ給はすなりぬるもあえなしとあきれてかへり給ぬ御いみにこもれる人数おほくて心ほそさはすこしまきれぬへけれとなかの宮は人のみおもはんこともはつかしき身の心うさを思しつみ給て又なき人にみえ給宮よりも御とふらひいとしけくたてまつれ給おもはすにつく　くと思きこえ給へりしけしきもおほしなをらてやみぬるをおほすにいとうき人の御ゆかりなり中納言かくよのいと心うくおほゆるついてにほいとけんとおほさるれと三条の宮のおほされむことにはゝかりこの君の御ことの心くるしさとに思みたれてかのゝ給しやうにてかたみにもみるへかりける物をしたの心は身をわけ給へりともうつろふへくもおほえ給さりしをかう物思はせたてまつるよりはたゝうちかたらひてつきせぬなくさめにもみたてまつりかよはましものをなとおほすかりそめに京にもいて給はすかきたえなくさむかたなくてこもりおはするを世人もをろかならす思給へることゝみきゝて内よりはしめたてまつりて御とふらひおほかりはかなくてひころはすき行七日　くの事ともいとたうとくせさせ給つゝをろかならすけうし給へとかきりあれは御その色のかはらぬをかの御かたの心よせわきたりし人ゝのいとくろくきかへたるをほのみ給ふも

　くれなゐにおつる涙もかひなきはかたみの色をそめぬなりけりゆるしいろのこほりとけぬかとみゆるをいとゝぬらしそへつゝなかめ給ふさまいとなまめかしくきよけなり人ゝのそきつゝみたてまつりていふかひなき御ことをはさる物にてこのとのゝかくならひたてまつりていまはとよそにおもひきこえむこそあたらしくくちをしけれおもひのほかなる御すくせにもおはしけるかなかくふかき御心のほとをかた　くにそむかせ給へるよとなきあへりこの御かたにはむかしの御かたみにいまはなに事もきこえうけ給はらむとなん思給ふるうと　くしくおほしへたつなときこえ給へとよろつの事うき身なりけりと物のみつゝましくてまたたいめむしてものなときこえ給はすこの君はけさやかなるかたにいますこしこめきけたかくおはするものからなつかしくにほひある心さまそおと

り給へりけるとことにふれておほゆ雪のかきくらしふる日ひねもすになかめくらして世の人のすさましきことにいふなるしはすの月夜のくもりなくさしいてたるをすたれまきあけてみ給へはむかひのてらのかねのこゑ枕をそはたてゝけふもくれぬとかすかなるひゝきをきゝて

をくれしと空行月をしたふかなつゐにすむへきこのよならねは風のいとはけしけれはしとみをろさせ給によもの山のかゝみとみゆるみきはのこほり月かけにいとおもしろし京のいゑのかきりなくとみかくもえかうはあらぬはやとおほゆわつかにいきいてゝものし給はましかはもろともにきこえましとおもひつゝくるそむねよりあまる心ちする

恋わひてしぬるくすりのゆかしきに雪の山にやあとをけなましなかはなる偈をしへむおにもかなことつけて身もなけむとおほすそ心きたなきひしり心なりける人ゝちかくよひいて給て物かたりなとせさせ給けはひなとのいとあらまほしくのとやかに心ふかきをみたてまつる人ゝわかきは心にしめてめてたしと思たてまつる老たるはたゝくちおしくいみしき事をいとゝ思ふ御心ちのおもくならせ給しこともたゝこの宮の御ことをおもはすにみたてまつり給て人わらへにいみしとおほすめりしをさすかにかの御かたにはかくおもふとしられたてまつらしとたゝ御心ひとつによをうらみ給めりしほとにはかなき御くた物をもきこしめしふれすたゝよはりになむよはらせ給めりしうはへにはなにはかりこと

くしくものふかけにももてなさせ給はてしたの御心のかきりなくなにこともおほすめりしにこ宮の御いましめにさへたかひぬることゝあいなう人の御うへをおほしなやみそめしなりときこえており　くの給しことなとかたりいてつゝたれも　くなきまとふことつきせすわか心からあちきなきことをおもはせたてまつりけむ事ととりかへさまほしくなへての世もつらきにねんすをいとゝあはれにし給てまとろむほとなくあかし給にまた夜ふかきほとの雪のけはひいとさむけなるに人ゝこゑあまたしてむまのをときこゆなに人かはかゝるさよ中に雪をわくへきとたいとこたちもおとろき思えるに宮かりの御そにいたうやつれてぬれ　くいり給へるなりけりうちたゝき給さまさなゝりときゝ給て中納言はかくろへたるかたに入たまひてしのひておはす御いみは日かすのこりたりけれと心もとなくおほしわひてよ一夜雪にまとはされてそおはしましけるひころのつらさもまきれぬへきほとなれとたいめむし給へき心ちもせすおほしなけきたるさまのはつかしかりしをやかてみなをされ給はすなりにしもいまよりのちの御心あらたまらむはかひなかるへく思しみてものし給へはたれも　くいみしうこ

とはりをきこえしらせつゝものこしにてそひころのおこたりつきせすの給をつく　くときゝゐ給へるこれもいとあるかなきかにてをくれ給ふましきにやときこゆる御けはひの心くるしさをうしろめたういみしと宮もおほしたりけふは御身をすてゝとまり給ぬものこしならてといたくわひ給へといますこし物おほゆるほとまて侍らはとのみきこえ給てつれなきを中納言もけしききゝ給てさるへき人めしいてゝ御ありさまにたかひて心あさきやうなる御もてなしのむかしもいまも心うかりける月ころのつみはさも思きこえ給ぬへきことなれとにくからぬさまにこそかうかへたてまつりたまはめかやうなる事またみしらぬ御心にてくるしうおほすらんなとしのひてさかしかり給へはいよ　くこの君の御心もはつかしくてえきこえ給はすあさましく心うくおはしけりきこえしさまをもむけにわすれ給けることゝをろかならすなけきくらし給へりよるのけしきいとゝけはしき風のをとに人やりならすなけきふしたまへるもさすかにてれいのものへたてゝきこえの給ちゝのやしろをひきかけて行さきなかきことをちきりきこえ給もいかてかくくちなれ給けむと心うけれとよそにてつれなきほとのうとましさよりはあはれに人の心もたをやきぬへき御さまを一かたにもえうとみはつましかりけりたゝつく　くときゝて

　きしかたを思ひいつるもはかなきを行すゑかけてなにたのむらんとほのかにの給なか　くいふせう心もとなし

　行すゑをみしかき物とおもひなはめのまへにたにそむかさらなんなに事もいとかうみるほとなきよをつみふかくなおほしないそとよろつにこしらへ給へと心ちもなやましくなむとていり給にけり人のみるらんもいと人わろくてなけきあかし給ふうらみむもことはりなるほとなれとあまりに人にくゝもとつらき涙のおつれはましていかに思つらむとさま　くあはれにおほしゝらる中納言のあるしかたにすみなれて人ゝやすらかによひつかひ人もあまたしてものまいらせなとし給をあはれにもおかしうも御らむすいといたうやせあをみてほれ　くしきまてものを思たれは心くるしとみ給てまめやかにとふらひ給ありしさまなとかひなき事なれとこの宮にこそはきこえめと思へとうちいてむにつけてもいと心よはくかたくなしくみえたてまつらむにはゝかりてことすくなりねをのみなきて日かすへにけれはかほかはりのしたるもみくるしくはあらていよ　く物きよけになまめいたるを女ならはかならす心うつりなむとをのかけしからぬ御心ならひにおほしよるもなまうしろめたかりけれはいかて人のそしりもうらみをもはふきて京にうつろはしてむとおほすかくつれなきものから内わたりに

もきこしめしていとあしかるへきにおほしわひてけふはかへらせ給ぬをろかならすことの葉をつくし給へとつれなきはくるしきものをとひとふしをおほししらせまほしくて心とけすなりぬとしくれかたにはかゝらぬ所たにそらのけしきれいにはにぬをあれぬ日なくふりつむ雪にうちなかめつゝあかしくらし給こゝちつきせす夢のやうなり宮よりもみすきやうなとこちたきまてとふらひきこえ給かくてのみやはあたらしきとしさへなけきすくさむこゝかしこにもおほつかなくてとちこもり給へることをきこえ給へはいまはとてかへり給はむ心ちもたとへむかたなしかくおはしならひて人しけかりつるなこりなくならむをおもひわふる人〳〵いみしかりしおりのさしあたりてかなしかりしさはきよりもうちしつまりてゝみしくおほゆときおりふしおかしやかなるほとにきこえかはし給しとしころよりもかくのとやかにてすくし給へるひころの御ありさまけはひのなつかしくなさけふかうはかなきことにもまめなるかたにもおもひやりおほかる御心はえをいまはかきりにみたてまつりさしつる事とおほゝれあへりかの宮よりは猶かうまいりくることもいとかたきをおもひわひてちかうわたひたてまつるへきことをなむたはかりいてたるときこえ給へりきさいの宮きこしめしつけて中納言もかくをろかならす思ほれてゐたなるはけにをしなへておもひかたうこそはたれもおほさるらめと心くるしかり給て二条の院のにしのたいにわたいたまてとき　くもかよひたまふへくしのひてきこえ給ひけるは女一宮の御かたにことよせておほしなるにやとおほしなからおほつかなかるましきはうれしくての給ふなりけりさなゝりと中納言もきゝ給て三条の宮もつくりはてゝわたいたてまつらむ事をおもひしものをかの御かはりになすらへてみるへかりけるをなとひきかへし心ほそし宮のおほしよるめりしすちはいとにけなき事におもひはなれておほかたの御うしろみはわれならては又たれかはとおほすとや